

経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県 伊勢原市

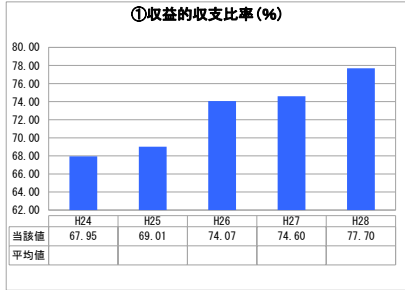
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	77.96	76.68	2,289

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
100,187	55.56	1,803.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
78,277	8.78	8,915.38

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



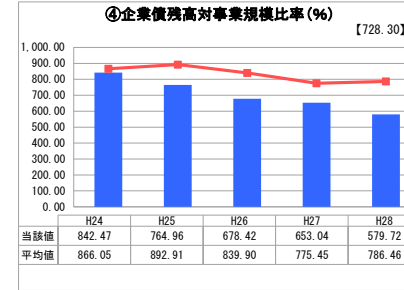
「単年度の収支」



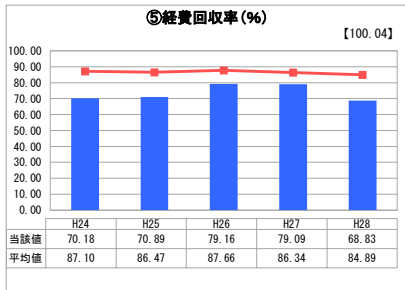
「累積欠損」



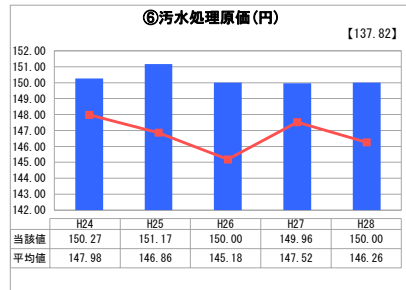
「支払能力」



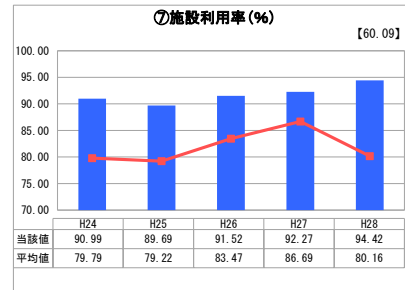
「債務残高」



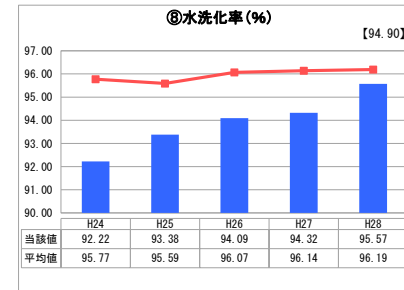
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

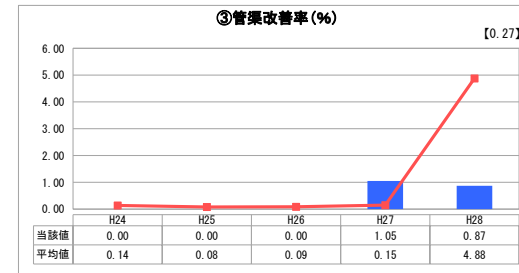
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

平成26年度に下水道使用料の料金改定を行ったことや、供用開始に伴い、接続件数は増加傾向にあり、下水道使用料収入については一定の効果を得られています。収益的収支比率は右肩上がりとなり、企業債残高対事業規模比率についても類似団体内において低い水準となっています。しかしながら、一般家庭の節水傾向は続き、水量の伸びが期待できないことから大幅な増収が見込めない状況です。経費回収率は前年度と比較すると前年度を下回っていますが、使用料収入として算入していた他市負担金を別立てとし、算式の変更を行ったことによるものです。汚水処理原価は類似団体と比較すると高くなっていますが、これは老朽化に伴い管渠の破損などにより不明水が多くなっていることが要因であると推測されます。今後は処理場、ポンプ場及び管渠についてストックマネジメント計画を策定し、長寿命化対策や老朽化対策に取り組んでいきます。水洗化率については上昇傾向にありますが、引き続き供用開始後の普及活動を強化していきます。

2. 老朽化の状況について

処理場施設の老朽化に伴い改築更新を計画的に行っている状況です。管渠についても老朽化による不明水対策が必要であり、地震対策とあわせて整備を行う方針です。今後は処理場、ポンプ場及び管渠についてストックマネジメント計画を策定し、長寿命化対策事業を進めるための交付金など財源確保に努めます。

全体総括

管渠整備についてはアクションプランに基づき平成37年度までに市街化区域の整備概成を目標に進めています。整備にあたっては、骨格となる幹線を先行整備し、水洗化の意向が高い地域やマンションなど優先的に枝線整備を実施するなど、意向型整備により、早期に使用料収入の確保を目指します。今後も地震対策や改築更新、下水道普及促進など事業費の増大が懸念されます。平成28年度には、「伊勢原市公共下水道経営健全化計画」を策定し、歳入の削減と歳入の確保を図り、目標とする経営指標を定めました。一般会計からの繰入金金の削減に努め経費回収率の向上を目指すため、経費削減は引き続き行っていますが、それでもなお不足する部分は平成29年度において使用料改定を検討しました。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。